

第4期中期目標期間に係る業務の実績に関する進捗状況（令和6年度）

国立大学法人筑波技術大学

○ 各中期目標の達成状況

I 教育研究の質の向上に関する事項 (1) 社会との共創

中期目標	義務教育段階に在籍する児童・生徒から、高等教育機関で学ぶ学生及び様々な分野で活躍する社会人等、幅広い層の障害者とりわけ聴覚・視覚障害者やその保護者に、筑波技術大学が有する教育・支援のノウハウを提供することで、本人が持つ可能性の拡大に寄与する。併せて、本人を取り巻く支援者・教育者・関係者等、周囲の人々と互いに協力関係を築き、環境の改善を図ることで、障害者が能力を発揮できる場の構築を目指す。
------	---

中期計画	中期計画の実施状況等
【1-1】聴覚・視覚障害学生の活躍と成長を支える大学間連携基盤の構築（横断的支援） 本学がこれまでに構築してきた教育関係共同利用拠点「障害者高等教育拠点事業」や日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）等を軸に、全学の教職員が参画できる体制を構築し、高い専門性に根差した相談・支援の提供を継続・深化させる。 併せて、各種研修会開催や教材提供、教材作成支援、聴覚・視覚障害学生の教育・支援に関わる人々の交流機会確保等を進めることで、本学とともに、障害の有無にかかわらず等しく学べる大学づくりに取り組める人材を増加させ、大学の枠を超えて聴覚・視覚障害学生の活躍と成長を支える体制基盤を構築する。	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ ①「障害者高等教育拠点事業」や PEPNet-Japan を軸に、聴覚・視覚障害学生及びその支援者・関係者・所属大学機関に対して、教育・支援及びそのノウハウを提供した。提供数については評価指標の達成状況を参照。それらの取組に対する利用者からの評価は PEPNet-Japan では5点満点で4.7、拠点事業では4.6と高い満足度が得られた。併せて、PEPNet-Japan シンポジウム等で人材の大規模な交流の機会を継続して確保し、情報共有による知見の拡大や聴覚・視覚障害学生を支える基盤の構築を促進した。 ②PEPNet-Japan では、見直しが必要な事項として、以下8点の改善に重点的に取り組んだ。（全項目について達成、改善率100%） (1) シンポジウムにおける音声聴取環境の改善 難聴等でできとりの難しい参加者がポスターセッションなど騒がしい環境でもスムーズに参加できるよう会場配置を工夫したり、情報保障者の配置を整備した。 (2) シンポジウムにおける参加者同士のコミュニケーションの活性化 ポスターセッションにおける参加者同士のコミュニケーションを円滑にするため、各々のコミュニケーションモードを示す「コミュニケーションリボン」を導入した。 (3) 多くの人に企画を届ける工夫（オンデマンド配信） リアルタイムで行うオンライン企画のオンデマンド配信を望む声が寄せられたため、本学公開講座についてはリアルタイム配信後に、アーカイブ映像をオンデマンド配信した。 (4) 見やすい配付資料の工夫 企画における配付資料はデータで配布していたが、目の見えにくい方にも配慮した大きさ、形式で作成し、配布するようにした。 (5) 軽度中等度難聴学生支援への取り組み 潜在化しがちな軽度中等度難聴学生への支援に関する取り組みとして、軽度中等度難聴学生を対象としたグループ相談会を年2回実施した他、補聴援助システムに関するコンテンツを2点新規に公開した。特にグループ相談会はピアな関係での語りの場として好評である。 (6) 音声認識技術を用いた支援に関する理解普及

急激に普及している音声認識を活用した支援に関する注意点を啓発するため、新規コンテンツ（改訂版含む）を2点公開した。

(7) 大学の枠を超えた関係入力技術に関する合同研修の実施

関係入力に係わる研修を望む声を受け、「PEPNet-Japan リソース活用事業」にて、複数大学・団体の支援者を対象とした合同研修会をオンラインにて実施した。

(8) 聴覚障害当事者の“声”を届ける企画の実施

「今後も引き続き当事者の声がきける企画をしていただきたい」という意見にあるよう毎年当事者を講師に迎えた企画を行っているが、令和6年度はシンポジウムにおいて支援を受けて卒業した当事者等による企画を実施した。

②拠点事業では、見直しが必要な以下の事項の改善に重点的に取り組んだ。

(1) 研修会・シンポジウムの実施方法について

前年度の見直しに加え、多様な方々の参加をよりスムーズにするための開催方法の見直しを実施した。これまでは研修会の広報対象として過去に本拠点事業を利用した大学に対してメールマガジン、ウェブサイト掲載による開催案内を行ってきたが、聴覚・視覚障害学生が在籍するすべての大学に情報提供を行うために、全国の高等教育機関の障害学生支援担当部署に郵送で案内を送付した。（改善率100%）

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 iii 【6年目終了時】 iii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
①	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度
	4,000人	17,460人	43,128人	41,424人				4,000人以上

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
②	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末
	—	—	96.6%	100%				95%以上

○評価指標

- ①他の高等教育機関等で学ぶ聴覚・視覚障害学生への教育環境改善に資する取組状況（350名規模のシンポジウムの継続開催などを通して、年間4,000名以上の関係者に教育・支援ノウハウを提供するとともに、利用者からの高い満足度を獲得する）
- ②取組実績・利用者評価を踏まえた改善状況（見直しが必要とされた事項に対する改善率を95%以上に保つ）

【1-2】聴覚・視覚障害者の一生涯を見据えた障害理解、教育、キャリア発達及び職業実践力育成と共生社会実現のための支援基盤の構築（縦断的支援）

全国の聴覚・視覚障害児・者の修学モチベーションを高め、大学等への進学率を向上させることを目的として、本学が実施してきた特別支援学校を中心とした高大連携事業を推進するとともに、義務教育段階にある児童・生徒からその保護者までを対象に、早期からの障害理解、高等教育への理解を広める活動を実施する。

また、本学卒業生を中心とした聴覚・視覚障害社会人の

《中期計画の実施状況》

＜令和6年度の実績＞

③大学説明会等で障害補償のある高等教育環境について児童・生徒や保護者に説明し、修学への意欲増進に取り組んだ。保健科学部では学科・専攻ごとに特色を活かした出前授業を特別支援学校で実施した。

④前年度まで実施した日本財団助成「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」事業の一部を継承して継続的に実施するとともに、前年度に引き続き公益財団法人の助成を受けて、聴覚・視覚障害のある社会人を対象としたビジネススキル向上やライフ&キャリアサポートを目的としたリカレント教育プログラム等を実施した。視覚障害系では、これまでに構築してきた学外との連携や助言を活かし、従来は学外の補助金により実施してきたリカレント教育事業を初めて学内経

就労支援を継続・発展させ、リカレント教育の実施によるスキルアップやキャリアアップに資する学びの場を提供し、セルフアドボカシースキル※などの職業実践力を育成する。さらに、障害者雇用を推進する事業所等への情報保障支援技術ノウハウ等の提供、企業や就労支援機関との協働による障害理解啓発を促進することに加え、様々な社会貢献プロジェクトの実施等を通して、真の共生社会を実現するための体制基盤を構築する。

○評価指標

- ③聴覚・視覚特別支援学校等で学ぶ児童・生徒及びその保護者に対して修学のモチベーションを向上させる取組状況（障害理解や高等教育に関する学修経験を年間300名以上の児童・生徒に提供する）
- ④聴覚・視覚障害社会人への学びの場の提供、障害理解や社会貢献プロジェクトの実施に関する取組状況（リカレント教育や情報保障システムの利活用などについて、受講者及び利活用者からの評価に基づく改善を実施し、この取組に対する総合的な評価において5点満点で平均4.0以上の水準を達成する）

【1-3】聴覚・視覚障害者スポーツを通じた大学・地域連携と障害者の社会参加支援

本学がこれまでに構築してきた、聴覚・視覚障害者スポーツに関する教育・研究のノウハウを生かして、他の高等教育機関や地方自治体等からの相談受付、支援の提供を継続するとともに、聴覚・視覚障害者スポーツに関わる人材育成に貢献する。

また、聴覚・視覚障害のみならず、すべての障害者の社会参加実現のために、スポーツを通して障害の有無にかかわらず共に取り組むことができる基盤を構築する。

費のみによって実施することができた。さらに、オンラインで社会に提供している情報保障システム T-TAC Caption の利活用者向けのアンケートに新たに満足度に関する指標を設けた。これらの受講者や利活用者からの評価については評価指標の達成状況を参照。

- ④企業向け大学説明会等で、企業や就労支援機関に対し障害学生の雇用やキャリアに関する理解を促し、社会に出た聴覚障害・視覚障害当事者が能力を発揮できる環境の構築を図った。
- ④社会貢献プロジェクトとして、連携協定を締結しているつくば市の職員及び首都圏新都市鉄道株式会社の従業員向けの研修を企画し実施した。

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値
③	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度	
	519人	636人	587人	878人				300人以上	

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値
④	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均	
	4.4	4.3	4.4	4.4				4.0以上	

＜中期計画の実施状況＞

＜令和6年度の実績＞

障害者のスポーツ実施機会提供のために、月1回の「スポーツ教室」と、年1回の「障害者スポーツイベント」を徐々に再開することができた。また、各種団体から依頼の「障害者スポーツ指導者養成講習会」は対面で実施できるようになり、他大学学生に対する「障害者スポーツ啓発のための講義・実習、交流会」についても対面で再開できた。これらの取組における参加者数は評価指標の達成状況を参照。

○評価指標

- ⑤全ての障害者への社会参加支援のためのスポーツ環境の構築に関わる取組状況(障害当事者及び指導員に対して年間300名以上を対象に提供する。ただし、本計画は身体的接触を伴う学びの要素が強いため、4期の3年目からの評価指標とし、2年目まではオンラインでの対応と3年目以降に向けた準備を実施する)

【1-4】健康生成型医療の地域展開と障害者の社会参加推進

鍼灸・あん摩マッサージ指圧、リハビリテーションなど健康生成型の医療に取り組む本学の「東西医学統合医療センター」において、地方自治体、他の地域医療機関等との連携を図るとともに、健康維持への啓発を目的とした公開講座の実施や本学学生・研修生との交流などを通して、地域の医療需要に応じた取組を推進する。

また、あん摩・鍼灸の国家資格を有する視覚障害者を対象とした臨床リカレント教育を、オンライン等を活用しつつ実施することにより、障害のある医療系人材の養成に貢献する。

○評価指標

- ⑥以下に掲げるアンケートによる高い水準の満足度(東西医学統合医療センターの研修修了者アンケート／リカレント教育事業終了時の参加者アンケート／公開講座終了時の受講者アンケート／東西医学統合医療センター利用者のアンケートにより、5点満点で平均4.0以上の水準を達成する)

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 iii 【6年目終了時】 iii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑤	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R6～9年度平均
	400人	(834人)	(1,129人)	1,768人				300人以上

《中期計画の実施状況》

＜令和6年度の実績＞

海外からの研修生受入れ、特別支援学校との遠隔による実技教授やカンファレンス、つくば鍼灸研究会、他大学や専門学校の受託実習を継続している。リカレント事業は、初めての本学自走となり、122名の受講者を集めた。計画達成へ向けた内部の意識改革の取組では、他職理解促進研修会や運営評価指標の設定を検討した。地域への発信として、公開講座を、一般や医師・医療スタッフや初学者を対象に継続するとともに、初めて地域の健康増進施設(WIT)と合同で開催した。その他、一般向けにオープンクリニックの開催、つくば市科学技術週間イベントや守谷マラソンへブースを出展した。つくば市持続可能都市戦略室及び6社の県内企業と情報交換を行い、健康生成型医療の地域展開や障害者雇用の拡大を進めた。

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑥	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均
	4.8	4.7	4.4	4.4				4.0以上

○ 各中期目標の達成状況

I 教育研究の質の向上に関する事項 (2) 教育

中期目標	特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。（学士課程）
------	---

中期計画	中期計画の実施状況等
【2-1】体系的で一貫性のある教育体制の整備及び全学的展開 医療系人材、工学系人材、デザイン系人材等の養成を基本としつつ、ディプロマポリシーに基づき、体系的で一貫性のある教育体制（教育組織、カリキュラム、授業実施体制等）の編成を推進する。編成に際しては、国際関係科目、聴覚・視覚障害以外の障害も含めた障害関係科目、データ・サイエンス科目、本学独自のプロジェクト型科目などを全学的に展開する。	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ 前年度に引き続き、両学部において全教員へのアンケートを実施し、体験型学習の実施状況を確認した。 保健科学部保健学科鍼灸学専攻では、付加的教育内容や手法を取り入れた特徴のある三つの履修モデル（コース）を構築するとともに国家資格取得を目指した国家試験対策を実施している。試験対策では、習熟度に応じた個別指導、模擬試験とフィードバック、試験スケジュールの相談対応、科目等履修制度を活用した指導を行っている。 臨床実践コースでは、鍼灸マッサージ分野の専門職業人として必要な知識と技術を修得する。臨床実習は、日本では新しいコンセプトの学部附属診療施設での実習を通じ、実践力を養う。鍼灸外来では経験豊富な教員と共に患者対応を行い、医師の診察見学やコ・メディカルスタッフとの連携を学ぶ。卒業後の活躍を見据え、企業や治療院でインターンシップを行い、専門的なスキルを磨く。 健康科学コースでは、鍼灸マッサージ領域における基礎知識や問題解決能力、論理的思考力を養う。ゼミナールでは、受動的な学びではなく、能動的な学習を促進するチュートリアル授業を採用し、学生の探究心を育む。未解明の課題について教員や学生同士で議論を深めることで、研究の面白さや奥深さを体験し、社会で活かせる思考力を養成する。 健康スポーツコースでは、スポーツ分野で鍼灸マッサージの資格を活かすことができるように、スポーツ活動や健康支援の専門知識を修得する。スポーツ現場での選手ケアや施設見学、スポーツイベントの運営補助を通じて実践経験を積む。スポーツによる健康への影響や怪我の予防・治療、競技復帰の知識を深め、健康づくりのためのトレーニング理論と実践方法を学び、指導力を高めることを目指している。

○評価指標

- ⑦以下の取組による教育内容の改善・強化
- ・国家資格等の取得に向け、付加的教育内容・手法を取り入れた「履修モデル」の構築
 - ・カリキュラムマップ等の再整備による学修成果の可視化
 - ・体験型学習（国際交流科目、プロジェクト型授業、インターンシップ、正課外活動等）の実施状況（全科目数の30%以上）
 - ・データ・サイエンス科目の全学必修化

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑦	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末
	—	—	27.6%	31.6%				30%以上

2) 定性的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
⑦	<令和6年度の実績> ・国家資格等の取得に向け、付加的教育内容・手法を取り入れた「履修モデル」の構築（保健科学部）

【2-2】ダイバーシティ社会環境醸成に資する障害者人材養成のための新たな学位プログラム等の構築

聴覚・視覚障害学生が自己の障害を社会で生きていく際の強みとして捉え、障害者支援等の取組を通して真にインクルーシブな環境を整備していくことができる人材を養成する。このため、障害に関連する学問分野を中核とした異分野融合型の新たな学位プログラム等を構築する。

○評価指標

- ⑧ダイバーシティ環境に係る新たな学位プログラム等の設置状況（設置の有無及び設置プログラムの内容（障害に関連する学問分野、異分野融合の科目等の構成））

《中期計画の実施状況》

<令和6年度の実績>

令和6年8月28日付で文部科学省から大学設置・学校法人審議会において設置を可とする回答がされた旨の通知を受領し、学生募集活動、入学試験を実施した。

【評価指標の達成状況】

1) 定性的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
⑧	<令和6年度の実績> ・設置可の回答を受け、学生募集活動、入学試験を実施

【2-3】幅広い教養と専門性、能動的な学修姿勢を身に付けた人材の育成

障害特性や個人差に対応するため、少人数教育を通して、「支援技術学」を通じての工学・デザイン学系分野、臨床実習を含む医療系分野など、幅広い教養と専門性を身に付けた人材を育成する。また、学生の能動的な学修姿勢を培うため、全ての分野、領域において、アクティブラーニン

《中期計画の実施状況》

<令和6年度の実績>

障害特性等に対応した教育、アクティブラーニング手法を用いた授業、体験型学習の実施状況について、全教員にアンケートを実施し、開講科目及び学外実習等を含めた実施状況を確認した。実施状況は評価指標の達成状況を参照。

グ手法を用いた授業を実施するとともに、体験型学習（聴覚・視覚障害者のグローバル化を視野に入れた国際交流科目、聴覚・視覚障害学生が他大学の学生等と一緒に取り組むプロジェクト型授業、インターンシップ、その他正課外活動）を推進する。さらに、大学間交流協定締結校・機関との国際交流活動や高大接続を見据えた特別支援学校の学習支援活動など外部機関との取組については、オンライン方式を積極的に活用する。

○評価指標

- ⑨障害特性や個人差に対応するための教育の実施状況(100%実施)
- ⑩アクティブラーニング手法を用いた授業の実施状況(全科目の80%以上)
- ⑪体験型学習（国際交流科目、プロジェクト型授業、インターンシップ、正課外活動等）の実施状況（全科目数の30%以上）

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑨	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末
	—	—	97.2%	100%				100%

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑩	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末
	—	—	94.9%	94.4%				80%以上

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑪	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末
	—	—	27.6%	31.6%				30%以上

○ 各中期目標の達成状況

I 教育研究の質の向上に関する事項 (2) 教育

中期目標	様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、特に筑波技術大学では、障害の特性や生育環境等にも配慮し、学生が安心して学べる環境を提供する。
------	--

中期計画	中期計画の実施状況等
【3-1】障害の多様性に応じたきめ細かい対応の実現 聴覚障害学生に対しては、学生の障害特性に応じた手話、口話、音声、筆談等のコミュニケーション手段の選択と併用、光によるチャイムや文字情報CATVモニターの各所配置、教材提示の工夫等、視覚障害学生に対しては、点字・拡大文字・録音資料等の配布、触図の活用、文字音声変換ソフトの活用、対象物に触れる機会の確保、点字ブロック及びガイドヘルプ等の、障害特性に即した配慮、支援を推進する。また、障害のある学生と社会の人々が互いに学ぶ環境を醸成し、情報アクセシビリティに関する知見を社会に還元する教育活動を実施する。 さらに、盲ろう学生をはじめとした重複障害学生、ジェンダーや国籍等に由来する多様なニーズに対応していくための取組の推進、相談の機能を強化する。そして、FD・SD活動の強化を通して、教職員の障害及びダイバーシティに関する知識やコミュニケーション力、学習指導技術、障害補償技術等についての向上を図り、障害の多様性を踏まえたきめ細かな対応を実現する。	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ 前年度末に変更が認可された中期計画に基づき、外部機関と連携して実施するプロジェクト型の教育プログラム及び障害者スポーツに関わるボランティア教育を実施した。参加学生数については評価指標の達成状況を参照。また、つくば市職員向けのユニバーサルデザイン研修を企画し、他の障害当事者団体等とともに実施した。受講者による評価については評価指標の達成状況を参照。 盲ろう学生をはじめとした重複障害学生、ジェンダーや国籍等に由来する多様なニーズに対応していくため、寄宿舍において個室シャワー、多機能トイレを設置した。また、保健科学部における盲ろう学生を対象に授業において要約筆記を配置した。産業技術学部の夜盲症、視野狭窄のある聴覚障害学生を対象に、オートライトや蛍光板を設置した。学生が寄宿舍へ入居する前には入学前相談を実施し、さらに相談窓口を含む学生のためのガイドライン（学生の性的指向・性自認の多様性尊重に関するガイドライン、人権侵害問題等の防止のために筑波技術大学学生が認識すべき事項について）を策定したことにより、相談機能を強化した。 FD・SD活動において、他大学の教学マネジメントの取組やアメリカの大学における多様性と包摂性に関する講演会、差別解消法に基づく合理的配慮研修を目的とした大学における障害学生支援の現在について講演会を開催した。また、茨城県の性的マイノリティにかかる連絡協議会への参加や広報をメインテーマとした学生生活研究会を実施することにより、教職員の障害及びダイバーシティに関する知識やコミュニケーション力等についての向上を図り、さらに「筑波技術大学 学生支援体制」のマップづくりと学生評価のフィードバックをすることで、きめ細かな対応ができる知識を身に付けた。

○評価指標

⑫障害の多様性を踏まえた教育方針についてとりまとめ、社会的な交通インフラ、公的サービス等を担う外部機関（鉄道、空港、気象庁、電話リレーサービス等）を通じたプロジェクト型の教育プログラムを開発する。また、障害者スポーツに関わるボランティア教育についても実施し、これらの教育プログラムを通じて、公的機関、サービス、イベント、災害時等におけるアクセシビリティ、バリアフリー環境の改善提案に関わる学生を、第4期中期目標期間中に累計1,000人とする。さらに、改善提案の相手先である外部機関からこれらの取組に対する評価を受け、5点満点で平均4.0以上の水準を達成する。

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 iii 【6年目終了時】 iii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑫	R4年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期 合計
	100人	—	277人	247人				1,000人

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑫	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期 平均
	—	—	4.5	4.6				4.0以上

2) 定性的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
⑫	<令和6年度の実績> ・プロジェクト型教育プログラムの開発（鉄道会社の従業員向け研修立案、自治体職員向け研修立案、空港のアクセシビリティ改善提案教育プログラムの立案）

【3-2】学生の目標達成意欲及び成長に関する意識啓発とその可視化

障害学生本人が自らの障害をどのように捉え、自身の生き方・あり方に対してどの程度肯定感を抱けているか、自らが目標を設定し、意欲を持ってそれを目指していけるかを可視化することで、本人のエンパワメント※につなげるとともに、大学生活及び自身の成長に対する満足度の向上を促進する。

※「エンパワメント」

障害者自身に力をつけて、彼らが自己決定することを可能とし、目前の課題に対して当事者が自身の置かれた状況に気づき、問題を発見または自覚し、自らの生活の調整と改善や周囲の環境を整えること。

《中期計画の実施状況》

<令和6年度の実績>

前年度に決定した方針を踏まえて設問等を決定し、学生からの意識啓発に関する意見聴取を実施した。学生からの意見聴取の結果については評価指標の達成状況を参照。

○評価指標

⑬各種取組等に対する学生からの意識啓発に関する意見聴取

(評価指標の設定理由から)

学生からの意見聴取について、肯定的な意見を得るとともに、5段階評価において、平均3.7以上、3以上の回答80%以上を達成基準と考えている。

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑬	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末
	—	—	—	4.6				3.7以上

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値
⑬	—	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末
	—	—	—	3以上が 100%				3以上が 80%以上

○ 各中期目標の達成状況

I 教育研究の質の向上に関する事項 (3) 研究

中期目標	地域から地球規模に至る聴覚・視覚障害を中心とした障害等に関連する社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。
------	---

中期計画	中期計画の実施状況等																																																						
【4-1】聴覚・視覚障害を中心とした障害者等の支援に関わる分野、工学分野、医療分野等に関わる研究の推進と社会への還元 これまでに構築してきた研究支援体制を活用し、研究活動全般の底上げを進める。 その中で、特に移動支援やコミュニケーション支援が必要な聴覚・視覚障害者を中心とした障害者支援のため、情報保障支援等の技術開発、障害特性に配慮した教育手法や教材研究、キャリア発達支援等に関する研究を強化、推進する。	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ ⑭研究業績数の正確な把握のため、業績を登録することとしている researchmap への登録を教員に促し、登録情報を活用して教員評価を実施した。研究業績数については評価指標の達成状況を参照。 ⑭事務局の組織改編による研究支援体制の強化に伴い、（1）研究助成情報の収集・応募活動及び（2）各分野で実施される表彰案件への推薦活動を推進した。（1）においては事務局主導で民間の助成金を獲得し、総額 2,000 万円を若手研究者の研究費として配分した。（2）においては事務局が応募を促した教員が工学教育賞（日本工学教育協会）において最高賞とされる文部科学大臣賞を受賞した。 ⑭科学研究費助成事業では、障害者支援に関連した研究課題で基盤研究（A）を始めとした各研究種目に採択されており、それぞれ研究強化・推進が行われている。 ⑮前年度に決定した方針を踏まえて必要な事項を決定し、聴覚・視覚障害者支援に資する研究成果及び開発した情報保障システム等の波及効果についてとりまとめ、学外の研究関係有識者を加えた教育研究評価の場における評価を受けた。																																																						
○評価指標 ⑭令和3年度より運用している本学の教員評価における研究分野の業績数（運用を開始した令和3年度の実績に比して第4期末には10%増） ⑮聴覚・視覚障害者支援に資する研究成果及び開発した情報保障システム等の波及効果についてとりまとめ、学外の研究関係有識者を加えた教育研究評価の場における評価を受け、5点満点で平均4.0以上の水準を達成する。	【評価指標の達成状況】 1）定量的な評価指標 ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="5">実績</th><th colspan="2">（見込み）・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">⑭</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>第4期末</td></tr><tr><td>33.2</td><td>32.8</td><td>37.4</td><td>38.2</td><td></td><td></td><td></td><td>36.6</td></tr></table> ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="5">実績</th><th colspan="2">（見込み）・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">⑮</td><td>－</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>3年度に1度</td></tr><tr><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>4.4</td><td>－</td><td>－</td><td></td><td>4.0以上</td></tr></table>	No.	基準値	実績					（見込み）・実績		目標値	⑭	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末	33.2	32.8	37.4	38.2				36.6	No.	基準値	実績					（見込み）・実績		目標値	⑮	－	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	3年度に1度	－	－	－	4.4	－	－		4.0以上
No.	基準値	実績					（見込み）・実績		目標値																																														
⑭	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末																																															
	33.2	32.8	37.4	38.2				36.6																																															
No.	基準値	実績					（見込み）・実績		目標値																																														
⑮	－	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	3年度に1度																																															
	－	－	－	4.4	－	－		4.0以上																																															

○ 各中期目標の達成状況

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標

内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。

中期計画	中期計画の実施状況等																																																																																	
【5-1】内部統制機能の強化 本学における内部統制システムの整備・運用について、適切なリスク管理、コンプライアンスの推進等のための取組を進め、ガバナンス体制を強化する。 また、監事へのサポート体制を充実し、個別の取組に対する監査を経ることで、ガバナンス体制の向上へとつなげる。	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ ⑩リスクマップの精査を内部統制委員会において実施した。実施回数は評価指標の達成状況を参照。 ⑪外部有識者が出席する委員会等や各種行事等において意見聴取を実施した。実施回数は評価指標の達成状況を参照。 ⑫月例の会議のほか、定期的に監事との意見交換を実施した。特に令和5年9月からは常勤の監事を採用し、意見交換がより円滑に実施できる体制を整備した。意見交換の回数は評価指標の達成状況を参照。 【評価指標の達成状況】 1) 定量的な評価指標 ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="5">実績</th><th colspan="2">(見込み)・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">⑩</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>毎年度</td></tr><tr><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td><td></td><td>1回以上</td></tr></table> ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="5">実績</th><th colspan="2">(見込み)・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">⑪</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>第4期平均</td></tr><tr><td>30回</td><td>36回</td><td>39回</td><td>36回</td><td></td><td></td><td></td><td>30回超</td></tr></table> ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="5">実績</th><th colspan="2">(見込み)・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">⑫</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>毎年度</td></tr><tr><td>月1回</td><td>月1.3回</td><td>月2.2回</td><td>月2.3回</td><td></td><td></td><td></td><td>月1回以上</td></tr></table>	No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値	⑩	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度	1回	1回	1回	1回				1回以上	No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値	⑪	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均	30回	36回	39回	36回				30回超	No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値	⑫	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度	月1回	月1.3回	月2.2回	月2.3回				月1回以上
No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値																																																																									
⑩	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度																																																																										
	1回	1回	1回	1回				1回以上																																																																										
No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値																																																																									
⑪	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均																																																																										
	30回	36回	39回	36回				30回超																																																																										
No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値																																																																									
⑫	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度																																																																										
	月1回	月1.3回	月2.2回	月2.3回				月1回以上																																																																										
○評価指標 ⑩リスクマップの精査及び管理・運営機能の改善に向けた検証（毎年度1回以上） ⑪外部有識者による意見聴取等機会の確保及び増加 ⑫監事との定期的な情報共有・意見交換の機会の増加（毎月1回以上）																																																																																		

【5-2】多様な専門的知見を取り入れた法人経営の実施

教育・研究・社会貢献の取組や法人としての管理・運営に関わる方針等の策定、その評価・検証、将来を見据えたその改善方策等の決定にあたっては、外部有識者の参加を含め、多様な意見が取り入れられる協議の場等を通じ、その意見を活用する。

○評価指標

- ⑬外部有識者による意見聴取等機会の確保及び増加（再掲）
- ⑭意見が反映され管理・運営改善に結びついた取組件数の増加

《中期計画の実施状況》

＜令和6年度の実績＞

- ⑬外部有識者が出席する委員会等や各種行事等において、意見聴取を実施している。実施回数は評価指標の達成状況を参照。
- ⑭経営協議会委員からの意見に基づき、大学機関別認証評価に係る自己評価書関係1件、ガバナンス・コード関係3件、業務実績報告書関係3件、連携事業関係1件、新学部設置関係2件、保健学科将来構想関係1件の改善に取り組んだほか、障害者高等教育研究支援センター運営協議会からの意見に基づき、障害者スポーツ普及関係4件、地域包括支援人材育成関係1件の改善を行った。

【評価指標の達成状況】

1) 定量的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値
⑬	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		第4期平均
	30回	36回	39回	36回					30回超

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値
⑭	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		第4期平均
	10件	13件	18件	16件					10件超

○ 各中期目標の達成状況

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況
(1) 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期目標	大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。
------	---

中期計画	中期計画の実施状況等																											
【6-1】施設設備の全学的なマネジメントによる整備・共用の推進 キャンパスマスタープラン、インフラ長寿命化計画等本学の設備整備に関する全学的な整備方針について、適切な見直しを図るとともに、これらを踏まえた保有資産の効率的活用、長寿命化のための性能維持・機能強化、聴覚・視覚障害学生をはじめ多様なニーズに配慮した取組を推進する。	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ ②①蛍光灯の2027年問題（製造中止）を受け、棟毎の照明のLED化計画を作成した。 ②②インフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき建物改修について具体的な検討を開始したことから、実施した場合にその後の計画について検討することとした。 ②③令和7年度共生社会創成学部設置に伴い、講義室化への部屋改修の際、天井照明をLED灯へ更新することにより、温室効果ガス排出量削減を図った。削減量は評価指標の達成状況を参照。また、令和5年度の温室効果ガスの総排出量抑制のための取組、実績を「環境報告書2024」として作成し、公表した。 さらに、蛍光灯の2027年問題（製造中止）を受け、照明のLED化として、令和7年度に天久保・春日地区の学生寄宿舎棟内の照明をLED灯へ更新予算を確保した。 【評価指標の達成状況】 1）定量的な評価指標 ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="5">実績</th><th colspan="2">（見込み）・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">②③</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>第4期合計</td></tr><tr><td>1,277.91 t-CO2</td><td>▲21.83 t-CO2</td><td>▲7.03 t-CO2</td><td>▲2.41 t-CO2</td><td></td><td></td><td></td><td>▲76.68 t-CO2</td></tr></table>	No.	基準値	実績					（見込み）・実績		目標値	②③	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期合計	1,277.91 t-CO2	▲21.83 t-CO2	▲7.03 t-CO2	▲2.41 t-CO2				▲76.68 t-CO2
No.	基準値	実績					（見込み）・実績		目標値																			
②③	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期合計																				
	1,277.91 t-CO2	▲21.83 t-CO2	▲7.03 t-CO2	▲2.41 t-CO2				▲76.68 t-CO2																				

○評価指標

- ②①個別施設・設備のリスト化（経年・改善・更新状況等）及びその更新
 ②②キャンパスマスタープラン等整備方針・計画の策定
 ②③施設設備の長寿命化等を見据えた省エネ化、効率的活用への取組状況（温室効果ガスの総排出量を原単位面積あたり毎年平均1.0%削減）

2) 定性的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
②①	<令和6年度の実績> ・天久保・春日地区学生寄宿舍棟内照明をLED灯へ更新することを計画

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
②②	<令和6年度の実績> ・インフラ長寿命化計画（個別施設計画）に基づき建物改修について具体的な検討を開始したことから、実施した場合にその後の計画について検討することとした。

○ 各中期目標の達成状況

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況 (2) 財務内容の改善に関する事項

中期目標	公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。
------	---

中期計画	中期計画の実施状況等																																																				
【7-1】外部資金の獲得を含む財源の多様化・安定化 本学の取組の根幹となる障害者支援について、その社会的な役割に対する理解を得るための取組や教育・研究実績の活用・普及のための取組を更に活性化することで、寄附金等の受入、保有資産・研究成果の活用等へとつなげることで、財源の多様化、安定化を促進する。	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ ②④科研費、奨学寄附金（基金含む）、受託研究、共同研究、補助金による外部資金を受け入れた。受入件数は評価指標の達成状況を参照。 ②④本学の教員が有する研究シーズをホームページに掲載するとともに、令和5年度からは研究シーズ集として冊子体にもまとめ企業訪問時に配付することで、本学の研究リソース及び研究成果を社会に対して積極的に発信した。この結果、令和6年度には研究シーズ集の閲覧を通じて企業から1件の奨学寄附金を受けた。 ②④外部資金獲得支援のため、研究実績を高めることを目的として、科研費申請者のうち不採択であった者を対象に、研究資金を配分して研究活動を支援した。支援の結果、令和6年度に支援した16件のうち、5件の科研費新規採択につながった。 ②⑤基金プロジェクトとして、より安定的に寄附が得られ、かつ寄附者の手続負担を軽減するための新たな寄附の方法として給与控除制度を導入した。 【評価指標の達成状況】 1) 定量的な評価指標 ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="4">実績</th><th colspan="2">(見込み)・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">②④</td><td>第3期平均</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>第4期平均</td></tr><tr><td>186件</td><td>153件</td><td>141件</td><td>301件</td><td></td><td></td><td></td><td>205件</td></tr></table> ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="4">実績</th><th colspan="2">(見込み)・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">②⑤</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>毎年度</td></tr><tr><td>0件</td><td>1件</td><td>1件</td><td>1件</td><td></td><td></td><td></td><td>1件以上</td></tr></table>	No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値	②④	第3期平均	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均	186件	153件	141件	301件				205件	No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値	②⑤	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度	0件	1件	1件	1件				1件以上
No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値																																													
②④	第3期平均	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均																																													
	186件	153件	141件	301件				205件																																													
No.	基準値	実績				(見込み)・実績		目標値																																													
②⑤	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度																																													
	0件	1件	1件	1件				1件以上																																													

○評価指標

②④外部資金等受入件数（対第3期中期目標期間平均の受入件数に比して第4期中期目標期間平均10%増）

②⑤寄附金等受入促進のための取組強化(基金プロジェクト増加件数)

○評価指標

- ②④外部資金等受入件数（対第3期中期目標期間平均の受入件数に比して第4期中期目標期間平均10%増）
- ②⑤寄附金等受入促進のための取組強化（基金プロジェクト増加件数）

【7-2】学内資源配分の最適化

本学が取り組む教育・研究・社会貢献活動等に関わるコストの見える化、これを踏まえた効率的・合理的な学内資源の活用、これらの活動の成果・評価に基づく配分等を推進し、学内資源配分の最適化を進める。

○評価指標

- ②⑥学内資源の活用を見据えた実態把握・見える化
②⑦学内資源配分にかかるインセンティブの精査

《中期計画の実施状況》

＜令和6年度の実績＞

- ②⑥前年度に作成したフォーマットの素案の確認を行った。また、HPで公表している統合報告書において前年度予算の公開を行った。
②⑥半期決算の素案の検証を行った。
②⑦前年度までの検討を基に、令和6年度予算にて、学長裁量経費を財源として、インセンティブ付与や取組活性化へのモチベーション付与に係る資源配分の試行を行った。

【評価指標の達成状況】

1) 定性的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
②⑥	＜令和6年度の実績＞ ・令和5年度予算の公開

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
②⑦	＜令和6年度の実績＞ ・インセンティブ付与・取組活性化へのモチベーション付与に係る資源配分の試行

○ 各中期目標の達成状況

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況

(3) 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

中期目標	外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。
------	--

中期計画	中期計画の実施状況等																															
【8-1】自己点検・評価結果の可視化及び法人経営への反映 本学が取り組む教育・研究・社会貢献活動の目的、内容、成果について、毎年度客観的なデータ等に基づく検証を行い、経営協議会を含む外部人材を交えた協議の場等において点検・評価の上、その結果をわかりやすく公表する。 さらに、その結果を踏まえた改善方策等をこれらの取組に反映させるための体制を整備する。	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ ㉔学内のデータを収集し、所定の会議で検証の上、各年度の自己点検・評価書を公表した。 ㉕経営協議会、障害者高等教育研究支援センター運営協議会及び基金管理運営委員会においてステークホルダーとの協議を実施した。 ㉖経営協議会委員からの意見に基づき、大学機関別認証評価に係る自己評価書関係1件、ガバナンス・コード関係3件、業務実績報告書関係3件、連携事業関係1件、新学部設置関係2件、保健学科将来構想関係1件の改善に取り組んだほか、障害者高等教育研究支援センター運営協議会からの意見に基づき、障害者スポーツ普及関係4件、地域包括支援人材育成関係1件の改善を行った。																															
○評価指標 ㉔毎年度評価のための活動等の検証 ㉕ステークホルダーとの協議機会の確保 ㉖ステークホルダーごとの改善方策への取組件数の増加(毎年度複数の取組実施)	【評価指標の達成状況】 1) 定量的な評価指標 ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="5">実績</th><th colspan="2">(見込み)・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">㉖</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>第4期平均</td></tr><tr><td>10件</td><td>13件</td><td>18件</td><td>16件</td><td></td><td></td><td></td><td>10件超</td></tr></table> 2) 定性的な評価指標 ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>進捗等</th></tr><tr><td>㉔</td><td>＜令和6年度の実績＞ ・令和5年度自己点検・評価書の公表</td></tr></table>	No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値	㉖	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均	10件	13件	18件	16件				10件超	No.	進捗等	㉔	＜令和6年度の実績＞ ・令和5年度自己点検・評価書の公表
No.	基準値	実績					(見込み)・実績		目標値																							
㉖	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均																								
	10件	13件	18件	16件				10件超																								
No.	進捗等																															
㉔	＜令和6年度の実績＞ ・令和5年度自己点検・評価書の公表																															

	・評価指標の達成状況【4年目終了時】ii【6年目終了時】ii <table><tr><td>No.</td><td>進捗等</td></tr><tr><td>㉔</td><td><令和6年度の実績> ・経営協議会、障害者高等教育研究支援センター運営協議会及び基金管理運営委員会における協議</td></tr></table>	No.	進捗等	㉔	<令和6年度の実績> ・経営協議会、障害者高等教育研究支援センター運営協議会及び基金管理運営委員会における協議																																																
No.	進捗等																																																				
㉔	<令和6年度の実績> ・経営協議会、障害者高等教育研究支援センター運営協議会及び基金管理運営委員会における協議																																																				
【8-2】ステークホルダーに対する情報発信及び連携強化 聴覚・視覚障害学生を受入対象とする本学において、障害者支援団体、地方自治体、民間企業、特別支援学校、小学校、中学校、高等学校を含む教育機関等と培ってきた連携体制を更に強化・拡充するとともに、これらのステークホルダーそれぞれに応じたきめ細かな情報提供・理解促進を進め、本学に対する支援・協力へと結実させる。 ○評価指標 ㉑ステークホルダーごとの情報発信の促進(情報発信件数を第3期中期目標期間の年度平均値より20%増加) ㉒情報発信による連携実績の件数（第3期中期目標期間の実績から倍増）	《中期計画の実施状況》 <令和6年度の実績> ㉑Facebook、X（旧 Twitter）、ウェブマガジン、プレスリリース、ホームページの各種媒体で情報を発信した。発信件数は評価指標の達成状況を参照。 ㉒サイエンスカフェに登壇、KEK 素粒子原子核研究所と点字本を共同制作、羽田空港における UD 検証の実施、小学校にてブラインドサッカーやデフスポーツに関する講義を実施、つくばエクスプレス接客マスターズに学生が協力、手話 CG による運行状況実証実験配信の開始、東海大学生と障害者スポーツで交流 【評価指標の達成状況】 1）定量的な評価指標 ・評価指標の達成状況【4年目終了時】ii【6年目終了時】ii <table><tr><td>No.</td><td>基準値</td><td colspan="4">実績</td><td colspan="2">（見込み）・実績</td><td>目標値</td></tr><tr><td rowspan="2">㉑</td><td>第3期平均</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>第4期末</td></tr><tr><td>632 件</td><td>764 件</td><td>876 件</td><td>986 件</td><td></td><td></td><td></td><td>759 件</td></tr></table> ・評価指標の達成状況【4年目終了時】ii【6年目終了時】ii <table><tr><td>No.</td><td>基準値</td><td colspan="4">実績</td><td colspan="2">（見込み）・実績</td><td>目標値</td></tr><tr><td rowspan="2">㉒</td><td>第3期平均</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>第4期平均</td></tr><tr><td>5 件</td><td>12 件</td><td>21 件</td><td>27 件</td><td></td><td></td><td></td><td>10 件</td></tr></table>	No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値	㉑	第3期平均	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末	632 件	764 件	876 件	986 件				759 件	No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値	㉒	第3期平均	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均	5 件	12 件	21 件	27 件				10 件
No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値																																													
㉑	第3期平均	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期末																																													
	632 件	764 件	876 件	986 件				759 件																																													
No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値																																													
㉒	第3期平均	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	第4期平均																																													
	5 件	12 件	21 件	27 件				10 件																																													

○ 各中期目標の達成状況

Ⅱ 業務運営・財務内容等の状況
(4) その他業務運営に関する重要事項

中期目標	AI・RPA（Robotic Process Automation）をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。
------	--

中期計画	中期計画の実施状況等																																																																														
【9-1】事務効率化、機能高度化を見据えた業務運営及びデジタル化の推進 業務運営のための組織・体制、その機能・役割分担等の見える化及びその検証を行い、業務の効率化・簡素化を進めるとともに、機能の高度化を見据えた事務システムの構築・活用を推進する。 さらに、これらの取組とも関連させて、聴覚・視覚障害学生のためのアクセシビリティに十分配慮した情報保障システムの構築・運用を基本としつつ、情報環境の整備を進める。 ○評価指標 ③学内組織の機能見える化・集約化（業務フローの精査を毎年度実施） ④事務の簡素化・縮減状況（業務フローを踏まえた縮減業務件数毎年度5件以上） ⑤情報環境改善のための取組状況（デジタル技術を活用したペーパーレス化等の取組を毎年度5件以上）	《中期計画の実施状況》 ＜令和6年度の実績＞ ③各課において業務フローの精査を実施した。実施回数は評価指標の達成状況を参照。 ④オンライン化や情報の整理・環境改善等による業務の縮減を行った。縮減件数は評価指標の達成状況を参照。 ⑤公開講座申込の電子フォーム化、公開講座修了証書の電子化、顔写真（学生証、名簿作成使用）提出のデータ化、旅行命令・報告書の一部電子化（ワークフロー）、勤務時間報告書の一部電子化、雇用関係申請書の一部電子化を行った。取組件数は評価指標の達成状況を参照。 【評価指標の達成状況】 1）定量的な評価指標 ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="4">実績</th><th colspan="2">（見込み）・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">③</td><td>－</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>毎年度</td></tr><tr><td>－</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td><td></td><td></td><td></td><td>1回</td></tr></table> ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="4">実績</th><th colspan="2">（見込み）・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">④</td><td>－</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>毎年度</td></tr><tr><td>－</td><td>12件</td><td>9件</td><td>5件</td><td></td><td></td><td></td><td>5件以上</td></tr></table> ・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii <table><tr><th>No.</th><th>基準値</th><th colspan="4">実績</th><th colspan="2">（見込み）・実績</th><th>目標値</th></tr><tr><td rowspan="2">⑤</td><td>－</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度</td><td>R7年度</td><td>R8年度</td><td>R9年度</td><td>毎年度</td></tr><tr><td>－</td><td>5件</td><td>6件</td><td>6件</td><td></td><td></td><td></td><td>5件以上</td></tr></table>	No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値	③	－	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度	－	1回	1回	1回				1回	No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値	④	－	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度	－	12件	9件	5件				5件以上	No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値	⑤	－	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度	－	5件	6件	6件				5件以上
No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値																																																																							
③	－	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度																																																																							
	－	1回	1回	1回				1回																																																																							
No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値																																																																							
④	－	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度																																																																							
	－	12件	9件	5件				5件以上																																																																							
No.	基準値	実績				（見込み）・実績		目標値																																																																							
⑤	－	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	毎年度																																																																							
	－	5件	6件	6件				5件以上																																																																							

【9-2】情報セキュリティの確保

本学の「サイバーセキュリティ対策基本計画」に基づき、実効性のあるインシデント対応のための体制を整備するとともに、自己点検及び監査の実施、構成員に対する理解促進・意識向上等の取組を推進する。

○評価指標

- ③⑥情報セキュリティ監査等の検証結果を踏まえた改善・強化の実施
③⑦情報セキュリティ研修に関する周知機会の確保

《中期計画の実施状況》

＜令和6年度の実績＞

- ③⑥情報セキュリティ監査（内部監査）を毎年度実施した。
③⑦情報システム統一研修について、毎年度四半期ごとに学内周知を行った。
③⑦情報セキュリティ研修（e-ラーニング）を行った。

【評価指標の達成状況】

1) 定性的な評価指標

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
③⑥	＜令和6年度の実績＞ ・情報セキュリティ監査（内部監査）の実施

・評価指標の達成状況 【4年目終了時】 ii 【6年目終了時】 ii

No.	進捗等
③⑦	＜令和6年度の実績＞ ・情報システム統一研修の四半期ごとの周知 ・情報セキュリティ研修（e-ラーニング）